

第 37 回春季講演大会の盛会を願って



組織委員長・慶應義塾大学
教授 石樽 崇明

Welcome back to JIEP 春季講演大会 & 慶應義塾大学!!

対面で開催する春季講演大会が3年ぶりに帰ってきます。その記念すべき再開を、第31回春季講演大会を開催させて頂きました慶應義塾大学理工学部(矢上キャンパス)で実現できますことを大変嬉しく思います。新型コロナウイルスの感染拡大が深刻化し始めた2020年3月、この春季講演大会は中止せざるを得ませんでした。以降、オンラインでの開催にて、第35回・36回の講演大会を実施しました。そのオンライン講演大会では、リアルタイムディスカッションや動画によるリアルタイム講演が取り入れられました。これは、エレクトロニクス実装学会にて、これまで多くの会員の方々が議論してきた電子部品実装技術をはじめとする幅広い技術が結実した最大の成果であったと言えます。ようやく私たちが描いてきた「便利な未来の社会」が、現実のものになった!と喜ぶべきことと思います。

それでも今年は対面開催に「戻す」のか?と思われる方もおられるかもしれません。この3年間、オンライン講演大会や多くのオンライン技術研究会を経験された皆様は、オンラインの便利さを享受できた反面、その会議に何かしらもどかしさを感じられていたのではないのでしょうか?「ミュートしてください」、「ミュートになったままですよ!」意見一つ言うにもミュートボタンを気にしなくてはならず、そこで思考が一旦停止してしまいます。そのもどかしさは、これまで開発されてきたエレクトロニクス実装技術が、まだ道半ばであったことを、私たちに教えてくれたように思います。それゆえに、さらなる便利な未来社会を目指して、ミュートボタンを気にせずに対面で議論したいと思うのではないのでしょうか?

しかし、コロナ禍は完全に終息したわけではなく、多くの参加者が集う場に懸念を感じられる方もおられることと思います。第37回春季講演大会は、オンラインにて開催した過去2回の講演大会で培ったノウハウを活かし、遠隔からのオンライン参加者も、対面参加者と同じように議論に参加できる環境を整えるべく準備を進めて参りました。講演大会としては初のハイブリッド開催となります。参加の方法に関わらず、全ての講演者・聴講者が楽しめる講演大会となることを願っております。

なお、本大会では、日本アイ・ビー・エム株式会社のご厚意により、対面参加される方(希望者)に、同社の量子コンピュータを見学する機会を頂けることとなりました。この場をお借りして御礼申し上げます。さらに、講演大会では初の試みであるハイブリッド方式の開催に向けて、早くから準備に尽力して下さいました実行委員、プログラム委員、学会事務局のご関係者の皆様に深く感謝申し上げます。

最後に、第37回春季講演大会にご参加くださるすべての皆様に感謝申し上げますとともに、皆様の益々のご活躍とエレクトロニクス実装学会のさらなる発展を祈念いたしまして、ご挨拶とさせていただきます。